改変アプリで
快適孕ませライフ！
・基本CG：10枚
・セリフあり・なし含めて
全129枚を収録
フロイトの淫夢

「あ〜〜、こいつ孕ませてぇ……」

すっかり脂の乗った中年おじさんになってしまった俺…倉山茂は、スマホでエロ動画を漁りながらそんなことを呟いてしまう。

どうも最近、自分の性欲が制御できていない気がしてならない。

少なくとも数か月ぐらい前までは、やりてぇ位は思ったとして、エロ動画の女を見て孕ませたいなんてそんな思いは抱かなかったはずだ。

女を孕ませればガキが生まれるしヤリ捨ても難しいしで、はっきりいって面倒でしかない。

そのはずなのに、こんなつぶやきが漏れるまでに欲望が湧き出てしまって止まらない。

何なんだこれは……。

オナニーの回数も増え、外出時にすれ違った女に体が反応して勃起したりと、いよいよ日常にも支障が出始めたある日……。

「へぇ、改変アプリ、か……」

突然俺宛に届いた謎のスマホには、そんな物騒なアプリとメッセージが添付されていた。

―君には素質がある。

そのアプリで好きに女を孕ませて世の少子化を改善すべく邁進するといい。

なお、スマホ起動後24時間以内にこのアプリを使用しない場合、アプリは自動的に消去される。

どちらにせよ、スマホはプレゼントしよう。

それでは、良き孕ませライフを。―

「ま、折角のもらい物だし、実際困ってたからな…
いっちょ使ってみるか」

別にこのアプリを信じているわけでもないが……。

今の俺は性欲がまるで抑えられないし、このまま
ほっとしてもそのうちやらかしてお縄になるだろう。

ん？病院に行けって？

行って検査もして、性欲抑える薬も処方してもらったが
意味がなかったんだよ……。

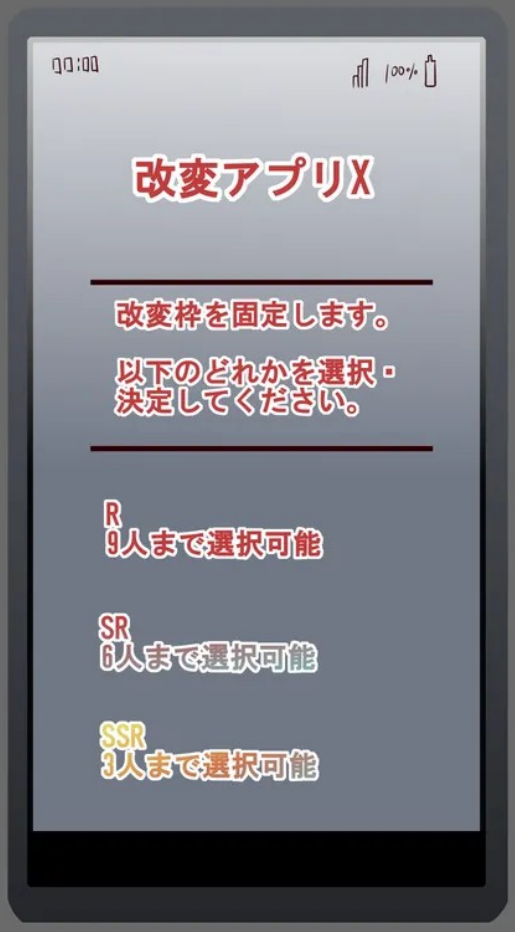
薬なんて飲んだら速攻吐いちまうからな。

体が受け付けてくれねぇ……。

どうせ捕まるなら、アホみたいなアプリで
話題になる方が面白いだろうさ。

「どれ、起動っと……
おぉ、本格的だな」

なんちゃってアプリかと思ったが、結構
それっぽく表示されてるな～～……。

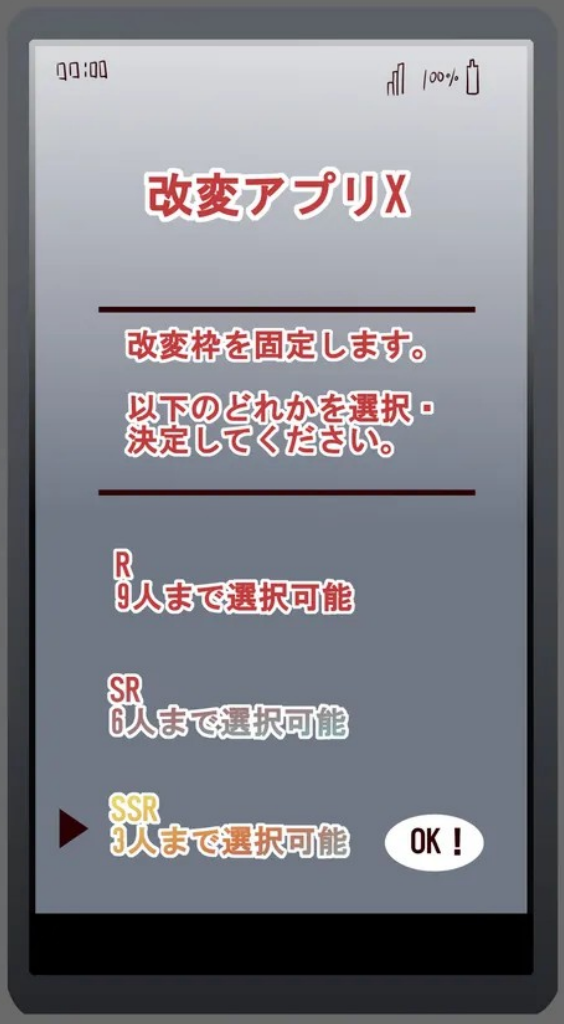


ふ～む、改変(?)対象枠ってのがあるな。
Rだと9人、SRで6人、SSRで3人となってるな。

普通なら数の9人なのかもしれないが……。

「レア度が高い方がエロくてイイ女ってことだろ？

なら、SSR3人で決定だろ♪」



「あ？
自画像を撮影って……
これでいいのか？」

―改変アプリの使用にあたって、対象者が
見るあなたの容姿を変更する必要があります。
対象者の許容値を検出中……。
容姿の変更を実行中……。―

まぁ、確かにブサ面の中年だけどよぉ……。

そんなのアプリで弄れるのか？

実際、リアルではこの面なわけだが……。

―容姿の変更を完了しました。

あなたは対象者からこのような姿であると認識されます。―

「ぶっっ!?
おいおい、詐欺にもほどがあるだろう……!」
SSRを選択したからなのか？
スマホに表示されている容姿は、今の俺の姿からは想像もできない別のナニかであった……。
もちろん、学生時代はこんなイケメンだったとか、そんなことは一切ない。

「でも、相手からこの姿に見られるなら
確かにワンチャンあるかもな……！」

別にすっかり信じ切ったとかそういうわけ
ではないが、思ったよりは期待できる位には
評価が上方修正された。

ど～れ、こうなりゃ早速一人目を
攻略してみるかなぁ……！

【一人目　ミレイちゃん】

ふむふむ、一人目はこの娘か。

生意気そうな眼付きだが、おっぱいは
はちきれんばかりに実ってるじゃないか……。

マッチングでおっぱいのパラメータごりごりに
振っといた成果がこうして出てくるわけか。

このアプリ通りだと、もうすぐ目撃者0人で
ターゲットに接触可能となっているが……。

……まじでいた。

うわっ、本物だ……！

え～っと、対象者の半径1m以内で
実行をタッチする、と……。

こ、これで合ってるよな？

「ど、どうも～～～……！」
さ～て、このアプリが本物なのかがいよいよわかるわけだが……。
「あ、もう来てたんだ～～♡
今日はキー君の家で色々するんでしょ？
早く案内してよ～～～！」

「あ、ああ…そうだったね
じゃ、ついてきて……！」
「うんっ♡」
やっべ～～～～～～!!
まじで効いてんだけど！
っていうか、キー君とかマジ受ける(笑)。
まぁ、アプリが本物なら、俺がキー君とやらに
見えてるってことか……。

んじゃ、裸にひん剥いて、っと……！
「い、いきなり!?」
既に母乳でも詰まってんじゃねーかってくらい
パンパンに張ってるじゃん♡
オマンコちゃんの方は……ふ～～む、使用感は
あまり無さそうだ……！

「待って、少しは弄って……!?」
ッッッ!?
悪いけど、おじさんもう限界なんだよ……！
誰でもいいから種付けしたくて理性がなくなりそうだったんだ……！
ああ、やっとハメれた……!!
ブチィッ!!

「キー君、ひどいよ……！
うぅ、でも、それだけ私が魅力的ってことだよね……」
んっ♡
ふっ♡
おぉ、めっちゃ改変効いてるっっ‼
っていうか、マジでキー君すげぇっっ‼
こんなゴミムーブでも許されるとか、イケメンずる過ぎだろ……！
ズッ
ズッ
ズッ

「もちろん膣内射精するけどいいよな？」
「えっ!?
あ、赤ちゃん出来ちゃうよ……！」
ズッ
ズボッ
ズッ
ほんと、何だよこの反応……。
いや、逆に考えよう……。
ここまでしないと、俺では三人ものSSR女どもに
種付けすることなんざ土台無理なんだ……！

「俺はお前を孕ませたいんだよっっ!!
おらっ、大好きな男のザーメンだぞっっ!!
しっかり着床しろっっっ!!」
「うんっっ♡
キー君の赤ちゃんなら、私も欲しいっっ♡
たくさん射精してぇっっっ♡♡」
パンッ
パンッ
パンッ

イくっっっッッ♡♡
ビクッ
ドビュッ
ビュルッ
あぁんっ♡

「いっぱい膣内に射精したねぇ……♡
ふふ、キー君と子作りセックスしちゃったぁ……♡」
ヒクッ
ヒクッ
ハッ♡
ハッ♡
ヘビィ…♡
ドプゥ…
現実はきもいおっさんに種付けされてるってのに
随分と幸せそうだなぁ……。
しっかし、種付けしてる時の射精の解放感は
やべぇなぁ……！
オナニーなんかじゃ味わえねぇ、最高のカタルシスが
感じられる。

今まで溜めに溜めていた欲情を
ミレイに吐き出していく。
「あっ♡
あっ♡
あぁぁんっっ♡」
ビクッ♡
オオッ♡
ゴッ
ゴッ
ボッ
ボッ
行為を始めてからしばらく経つが、ザーメンは
全て彼女の膣内に吐き出されている。
フェラだのパイズリだのアナルだの、そんなもんは
一切無視で、ただひたすらに着床を狙って
ちんぽをおっ起て続けていた。

ビク!
ビクッ
ダメ
ドッ♡
ハ♡
あぁ♡
ブビュビュッッ!!

ほんと、このアプリがあって良かった……。
どうやら俺は、自分の身に起きている異変を甘く見積もっていたらしい。
少なくとも、もうしばらくの間はこの状態から抜け出せそうにない。
彼女もだが、俺の中年ボディは果たして耐えられるのか……。
ハー…♡
ハー…♡
ヒクッ…
ヒクッ…
ドDォッ…

今日は食料品を調達するために久々に外出したものの、
途中から湧き上がる性欲を抑えるのに必死になった。
家に着くなり彼女の下半身をズリ下ろし、こうして
ハメている。
俺の服？
家に入った瞬間全部脱ぎ捨てたよ。

とはいえ、これほど強い発作的な衝動はもう訪れないということを本能的に感じ取ってもいた。

つつうか、こんだけ射精してるのに
まだ着床してないとか、そんなことあんのか？
改変アプリのステータス部分じゃ、孕ませ
完了アイコンがまだ光ってないし……。
これだけお膳立てされといて、実は俺の精子……。
いや、流石にそれはないか。
パン
パン
パン
パン
あっ♡
あっ♡
イクッ♡

ビュッ
ドピュッ
ビクッ!!
ボッ♡
ッッ♡♡

「やっぱ一発じゃすっきりしねぇから
食材しまったらベッドでハメ倒すぞ」
「んもぉ……♡
キー君、ほんと肉食系……♡」
自分の精子の活性に多少の不安を覚えていた翌日に
アプリの着床アイコンが点灯し、無事に種付け
出来たことが判明した。
ハァ♡
ハァ♡
ヒィ…♡
何はともあれ、これで一人目の攻略を終えたわけだ。

ミレイには恐らく妊娠していることと、
他の女を迎え入れる旨を伝えておいた。
その提案に、彼女はあっさりと了承して見せた。
キー君パワー、恐るべし。
そして次のターゲットだが、金髪ショートの
これまた巨乳の女の子。
俺は風俗でも金髪巨乳ギャルが好きだったので
これは大変に嬉しい。
ああ、想像しただけでもう射精しちゃいそうだ……！

「君がルイちゃんだよね？」
「そういう君はキー君でしょ？何々、告白？」
おし、改変アプリは正常に作動してるな。
相も変わらず好感度マックススタートだ。

っていうか、体操服、だよな……。
あれ、今って授業中？
でもここって、別に学校の敷地内じゃないし……。
「何で体操服着てんの？」

「え～～？
キー君がこれ着て待ってるように言ってたじゃん！
大丈夫～～？」

「そ、そうだったそうだった、ははは……！」
キー君の設定、マジでわけわかんねぇよ……！
実在する人物から行動パターン引っ張ってきて改変してるとかか？
いや、俺も体操服とか好きだけどさ……。
唐突過ぎてわけわかんねぇよ……。

「で、体操服で呼んだって」とはさ……
おちんぽ、溜まってるんでしょ？」
「えっ!?」
「家に着く前にここで一発抜いてこ～よ♡
ほ～ら、シコシコして顔にピュって射精してい～よ♡」

フェラじゃなくて、自分でしごいてぶっかけ？
……あれ、俺…それはやったことないかも。
「ほらほら、早くしごいて！
こんなサービスしてくれる良い娘、中々いないよ？」

ここ最近、まるで無駄打ちしてこなかった
俺のちんぽを、自分でしごいて……。
「あ～～～～ん……♡」
顔に向けて……！
ちゃんと口内にも入るように……！
ぱぁ♡

ビュッ
ビュッ

こ、これはこれで悪くない、かも……？
ミレイとはひたすら膣内射精だっただけに、
何だか新鮮に感じている。
一人孕ませたことで余裕が生まれたのだろうか……。

とはいえ、やられっ放しも性に合わない。
ちょっと仕返しとして、恥ずかしがってもらうとしよう。
「き、キー君て、こんな衣装も持ってたんだね……！」

そう、ホルスタインのコスプレだ。
デカ乳娘にぴったりの衣装といえよう♪

「どーれどれ……！
ほほう、ずっしり来るねぇ……♡」
こんなもんぶら下げてるのか……！
まだミルクタンクになってないのに、なんて
将来性のあるおっぱいなんだ!!

「な～んか、失礼なこと考えてない？
私、おっぱいは大きいけどそんなに
太ってないからね？」
むっ…
「いやいや、こんなにおっぱい重くて
大変そうだな～って思っただけだって…！」

「ま、ほんと肩凝るし、よく見られるしで
無い方が良くない？とか思ったけどね～～…
キー君っておっぱい星人じゃん？
だから今は大きくて良かったと思ってるってわけ！」
キー君、あの見た目でおっぱい星人とか
完全にむっつりじゃん！
俺？
デカパイ大好きおっぱい星人です。

「キー君、見た目の割にガツガツ来るねぇ♡」
あんっ♡
あんっ♡
この娘、肉食過ぎる……！
幸せなのはそうなのだが、体力がガンガン削られていく……！

んっ♡
はっ♡
イイおおッ♡
天国と地獄ってこういうことを言うのだろうか……！
しかし、男として……！
好きなだけ種付けセックス出来る状況で
疲れたといって腰を振らないやつにはなりたくない!!
ズッ
ズッ
ズンッ
「お？
キー君、腰振り頑張ってる～～～～♡」

はぁ、はぁ……！
絶対孕ませる、絶対孕ませる……!!
この射精で絶対着床させてやるぞ……!!
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
フッ♡
フッ♡
もっと…♡
んっ♡

ビュルルッ
ビュッ
イっちゃうっ♡♡
あっ♡
キたぁっ♡
ビクッ

体力、つけないと……。

これ、どっかで腹上死する。

この日から、彼女たちと一緒にセックス以外の運動も日課に取り入れることにした。

あと、ルイちゃんはこのセックスで無事孕んでいた。

ふ～～～～……。

いくら改変アプリで見た目を偽っても、中身は運動不足で肥えた中年おっさんだからな……。

若い娘たちを囲いたいなら、彼女たちの性欲にフルで応えられるだけの体力ってのは必須だって話だ。

体力付ければ囲えるって時点で相当恵まれてるんだ。

なら、グダグダ言わずに運動にも励むべきだろう。

まあ、今まで碌に運動してこなかった人間にとっては結構な苦痛を伴う行いではあるが……。

性欲ってのは偉大なもので、何とか最初の数日を乗り越えられた後は、まぁまぁ体も適応していった。

さ～て、体型こそほとんど変わりはないが、なんだかんだで体力は徐々についてきている。
そうなってくると、やはり3人目を迎えたくなる。

「いきなりキー君の家に行くの？
な～んかエッチな気配がするぞぉ…？」

この娘が最後のSSR、名前はナユちゃん。
3人の中では一番小柄なのかな？
でも、おっぱいはしっかり育っているので
問題なし！

それじゃ、早速……！
「え、えぇっっ!?
なんでおっぱいに顔突っ込んでんの!?」
ビクッ
えっ!?
すは～～～♪
これが巨乳少女の谷間か～～～♡
おちんぽにビンビンにくるぜ～～～～!!
パフーッ♡

「キー君の性癖って、結構独特？
おっぱいに顔を埋めて興奮する人なの？」
えー？…？
マジ？
パフッ
ポフッ
何やら混乱してるようだが、嫌がってはいないだろう。
改変アプリによるキー君補正の凄さは他二人によって
既に証明されている。

「いや、ナユちゃんのおっぱいがあまりに素晴らしくて、つい遊んじゃったよ…！」
「あ、私のことからかったの～～？キー君ってば、も～～～～～……♡」
ん♡
ス～リ
スリ♡
こんな気持ち悪い発言でも好感度アップ！
キー君様々な一方で、この扱いの差に殺意すらわいてくる……。

顔で堪能して終わり……って、わけもなく。
もちろん、おっぱいに挟むものといえば
ちんぽでしょ！
「キー君、おちんちんちゃんと洗ってる？
ちょっと臭うよ～～？」
洗ってるけど、おっさんだから直ぐに
臭くなるんだよ…。

「フローラルなちんぽってのも微妙じゃない」？
それに、段々この臭いが病みつきになってくるかも……なんて♪」
「ぷっ、やだぁ♡
キー君ったら、すっごいオジサン臭いことというね！」
もぉっ♡
そりゃ、中身はオジサンですからねー。
顔を埋めた時点でわかってたけど、やっぱ若い巨乳はモノが違いますわ。
直ぐにでも射精しそうだよ……！

まぁいい。
臭いといわれた熟成チンポをおっぱいに擦り付けていくぜ……！
「た、確かに、キー君の臭いと思えば…♡
そんなに悪くもない、かも……♡」
ズッ
ブッ
パンッ
パンッ
お、雌の本能が刺激されたか？
これが種付けするための発情期に入った雄の臭いってやつよ……！
だんだん濡れてきただろ？

極めつけのザーメンマーキング、発射!!
「きゃっっ!?」
ビュッ
ビュッビュッビュッビュッ
顔中にぶっかけてやる!!

「うへぇ～～……!!
キー君のでも、流石にこれの臭いはなぁ……!」
「これからもたくさん嗅ぐだろうし、なんなら飲んだりするかもしれないよ？
ちょっとずつ慣れていこうね？」
ベチャア…
えぇ…
「え～～～？
キー君、飲ますつもりなのぉ!?」
あったり前じゃ、ぼけぇ……。
こちとらボテ腹まで見据えてんだぞぉ？

もちろん、種付けも忘れずに♡
というか、俺の主目的はこっちだからな。
「ちょっとぉ……♡
あんまり乳首ばっかり弄らないでよぉ♡」
うひひ♪
デカ乳のくせに乳首が弱いと見た！
弄りまくってやる！

「ちょっ…♡
全然止めてくれないし、もぉ……♡」
乳首弄られながらちんぽハメられて、内心喜んでんだろ？
全然抵抗しないもんな♪
フッ♡
フッ♡
ズンッ
ズブッ
ズンッ

「っていうか、キー君…ナマで大丈夫なの？
私、ピル飲んでないし、アフターピルもないけど……」
「ん？
大丈夫大丈夫♪
むしろ全然当たって欲しいし……！」
ズッ
ズッ
ズッ

「え？
キー君、私との赤ちゃんが欲しいの？」
「そりゃ、ナマハメしてるくらいだしわかるっしょ」
もぐっ♡
「ええ～～～……♡
ど、どうしょう……♡」
パンッ
パンッ
パンッ

「どっちにしろ、もう射精すよ♪
しっかり一発で孕んでね♡」
あっ♡あっ♡
ん♡はぁん♡
「え!?
ちょ、ちょっと……♡
ほんとに……♡」
ズッ
パン
パン
パン
パン
ズッ

あっ、あっ♡
あああッッッ♡
ビクッ
ビクンッ
ひっ♡
イクッ♡
イッちゃうッ♡
キュンッ♡
ビュッ!!

「ほ、ほんとに……♡
たくさん、膣内に……♡」
ふぃ～～～……！
いやぁ、やっぱ主導権のあるセックスってのは最高だねぇ♡
ルイちゃんも悪くはなかったけど、基本はこうでしょ、こう！
ビクッ
ビクッ
ハァ…♡
ハァ…♡
ゴポォ…
ドロッ

あの最高の日々から数か月が経過した。
今、俺は3人の腹ボテ娘たちと生活を共にしている。

3人の娘を孕ませてから直ぐに、アプリの入った
スマホにメッセージが届いた。

曰く、

・俺には才能があるため、アプリ機能を
アップデートさせる予定がある。
・アップデートは3人の出産後に適用される。
・産まれた子供に関しては、別の養育機関に
引き取られるため、親権は放棄してもらう。
・引き続き3人を孕ませても良いし、開放しても良い。
・解放した場合、彼女たちは別の男の孕ませ袋として
運用される。

子育てはやる気ゼロだったため、これは素直にありがたい。

っていうか、ガキとか大嫌いだしな……。

3人を開放するかに関しては、論外だ。

たかがガキ一匹産んだところで何だってんだ……。

最低でも3人くらいは産んでもらわないと収まりがつかないってもんよ。

というか、俺はボテもかなり好きだからな。

それに、ガキを産んで直ぐに孕ませてというサイクルを続ければ、ずっと母乳を搾り続けられる。

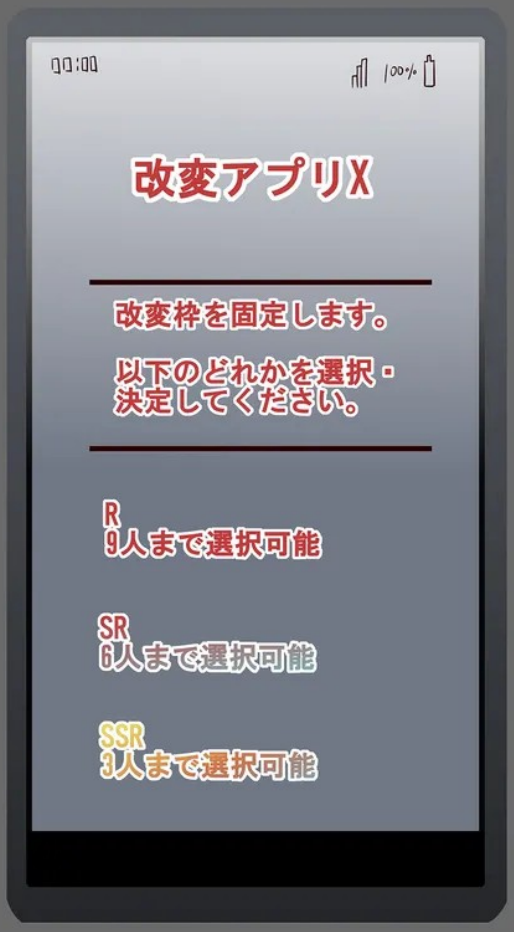
新しい女を孕ませたところで、母乳が出るまでは時間もかかるわけだし、そうなるとやはり3人の存在は俺の快適孕ませライフにおいて重要といえるわけで……。

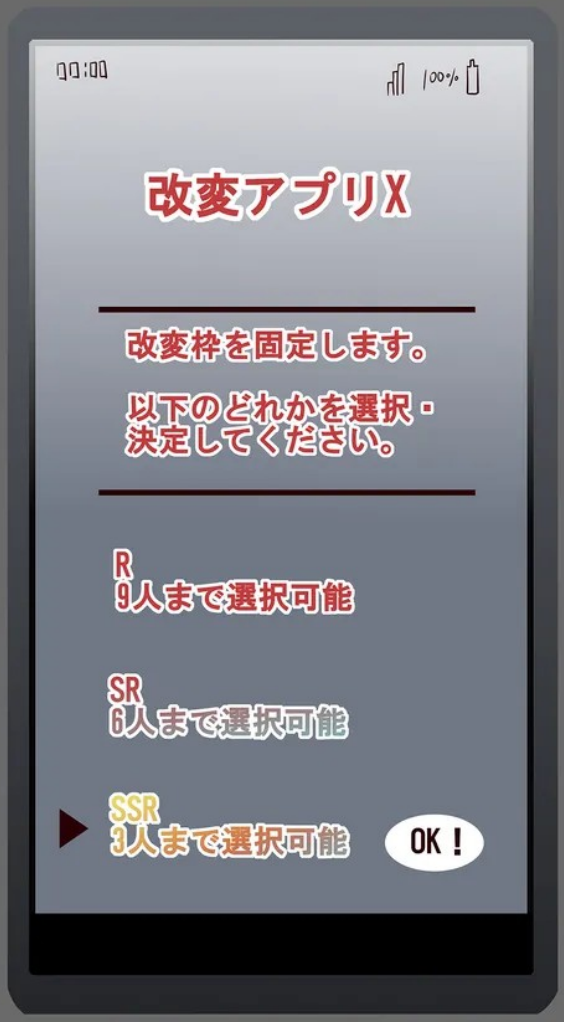
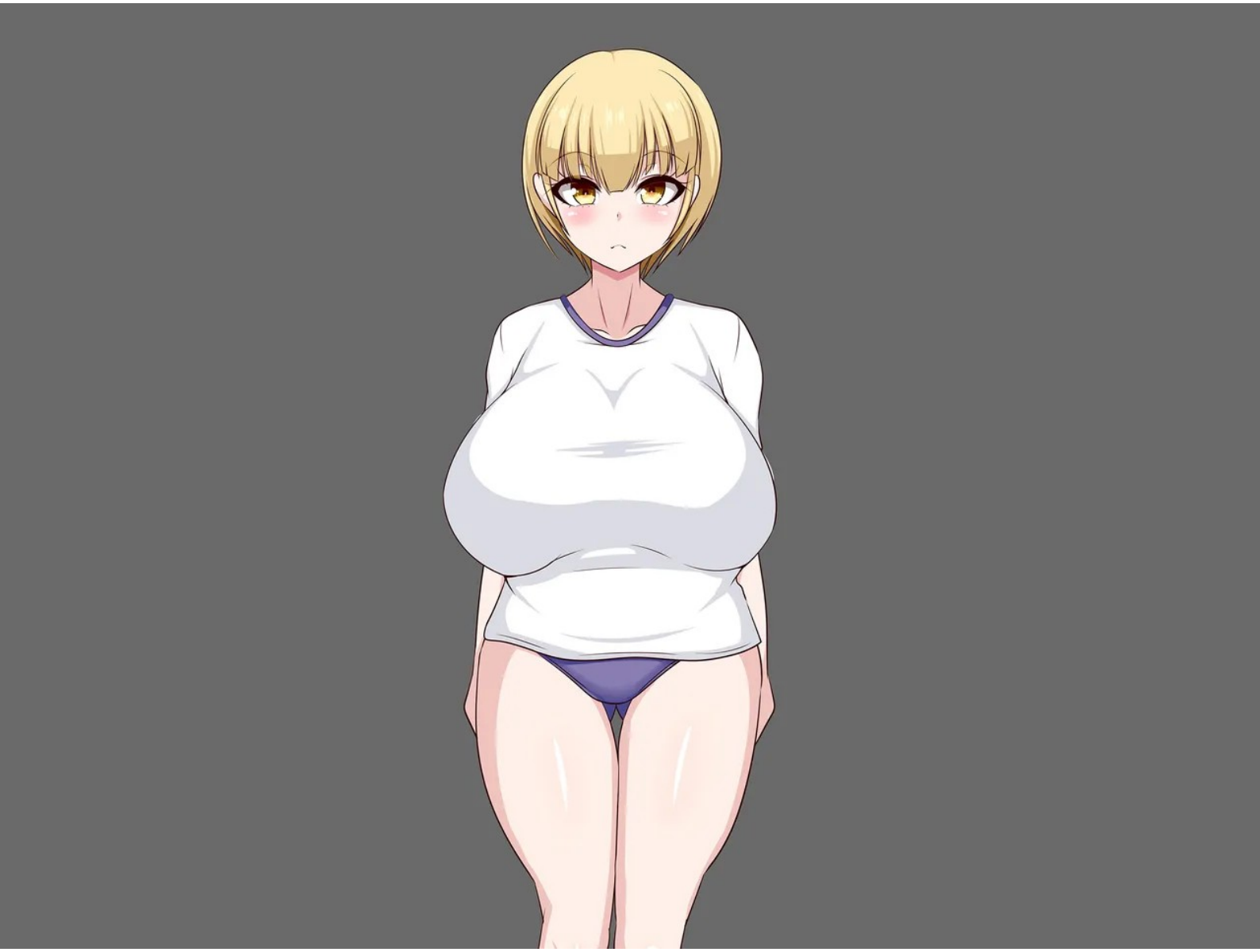
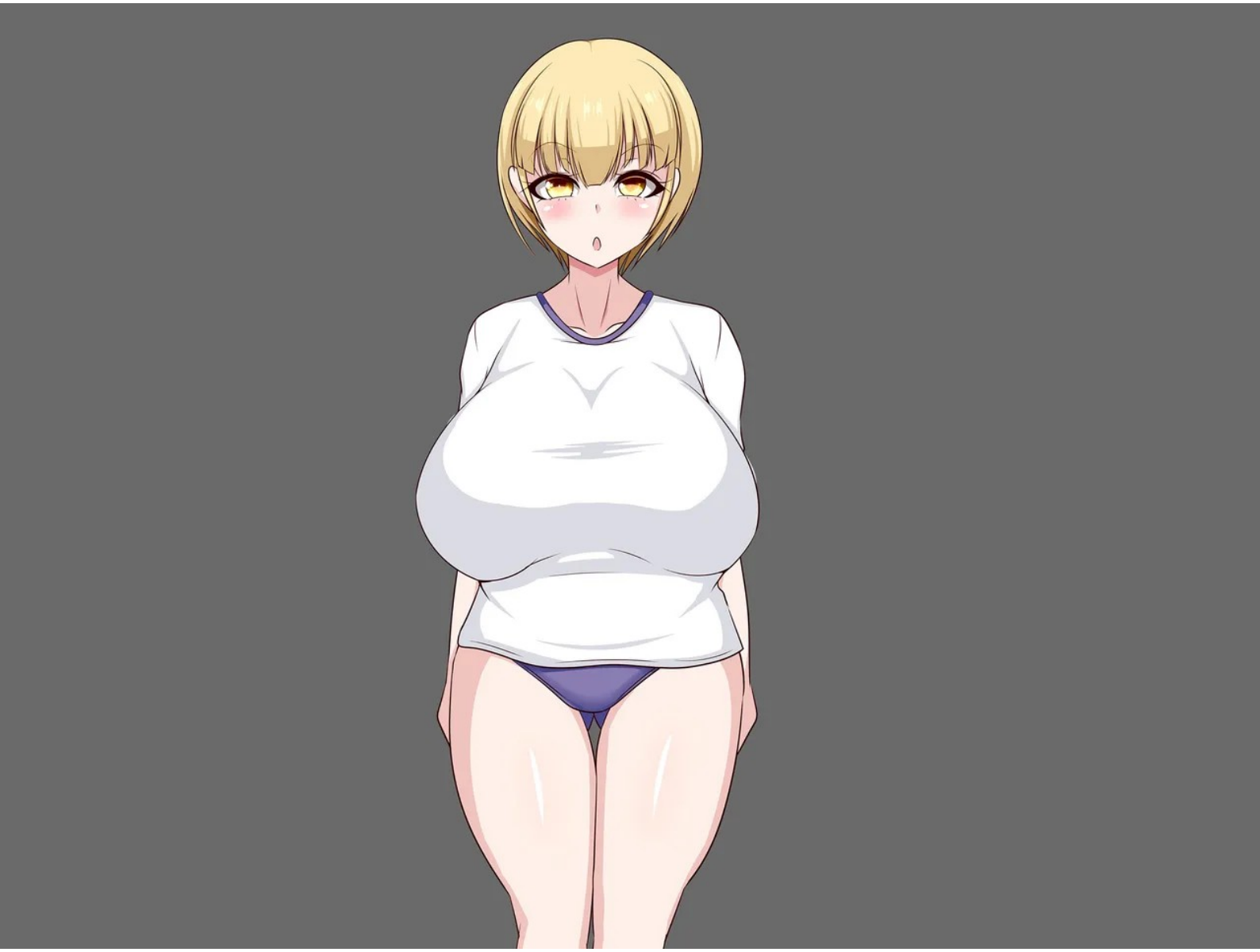
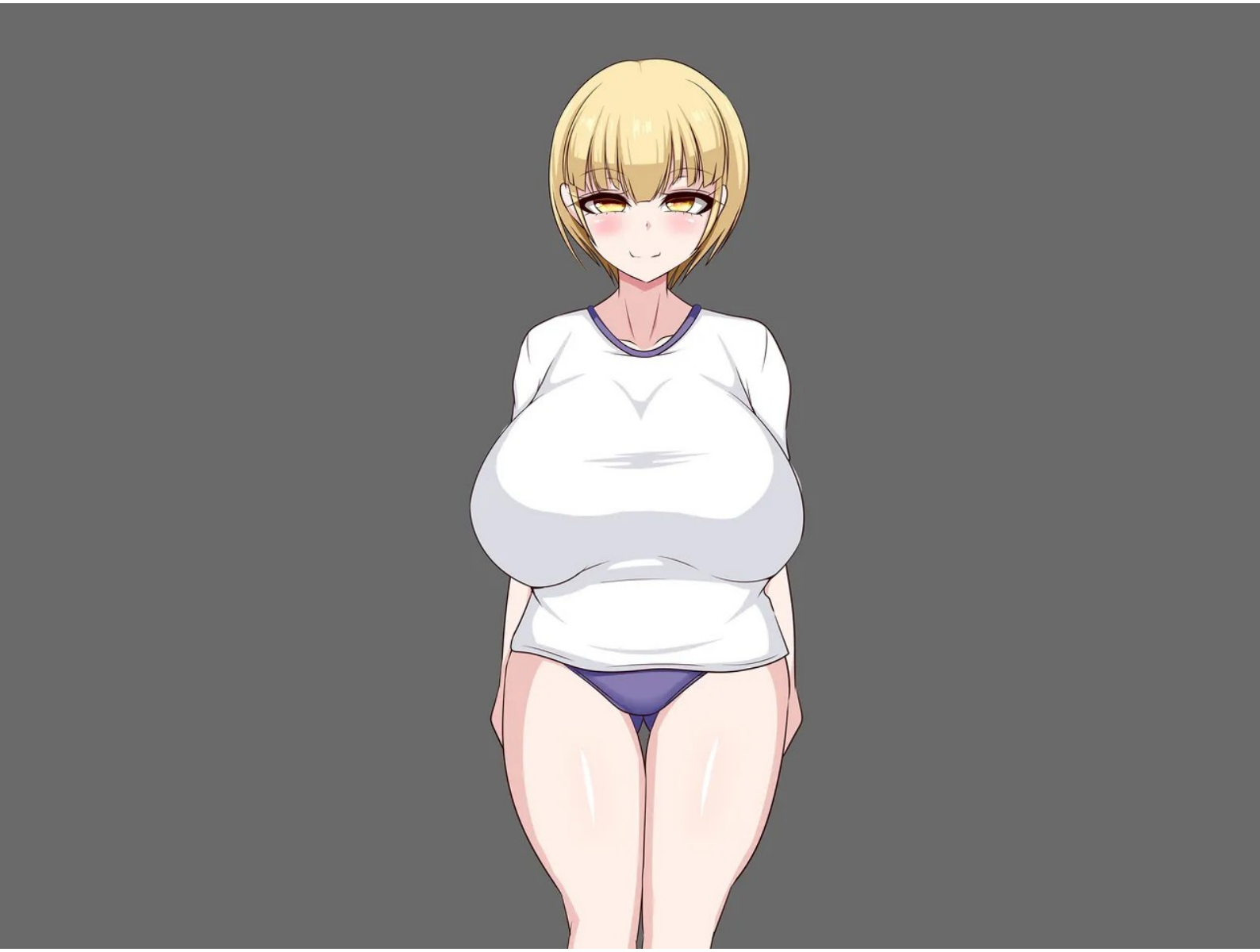
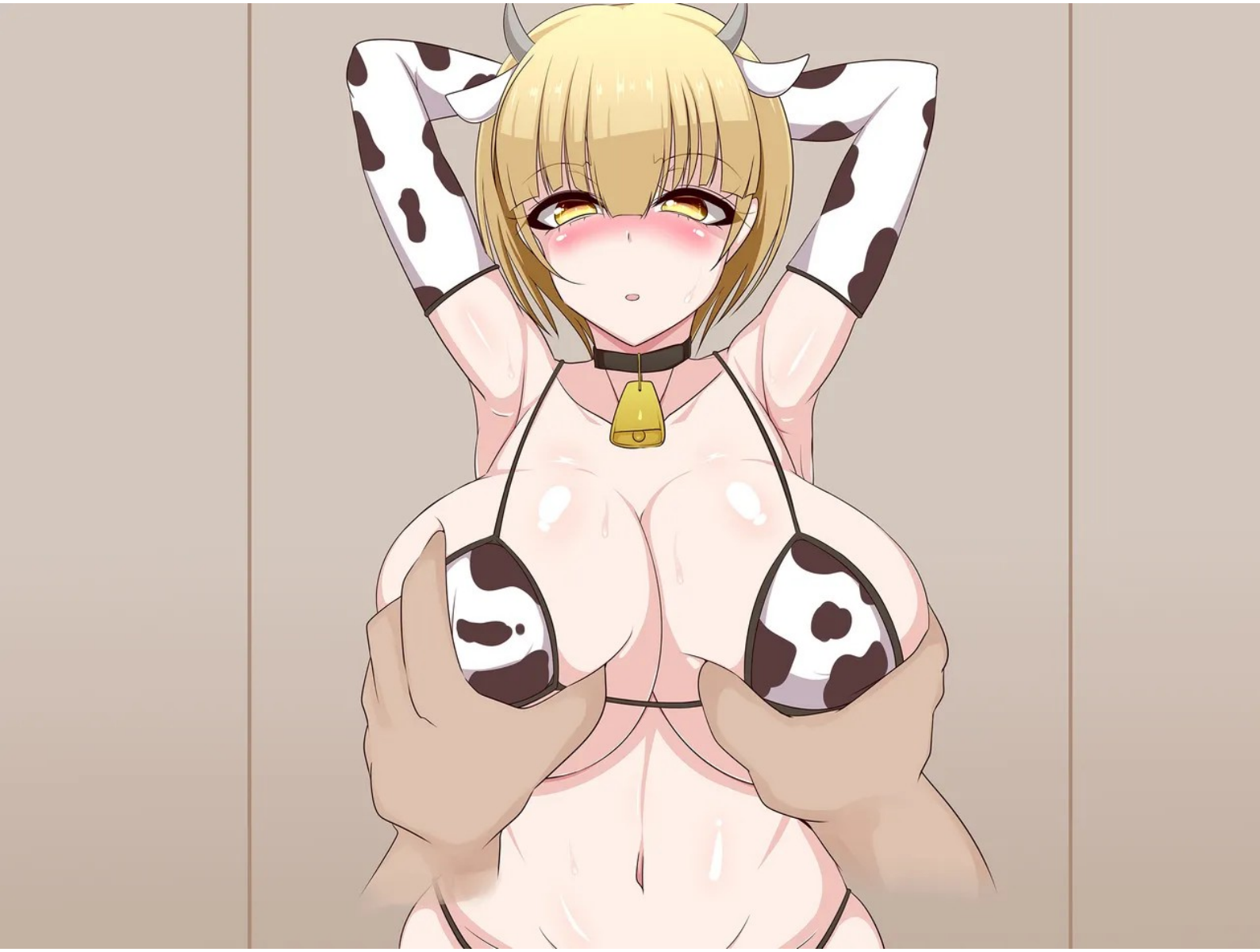
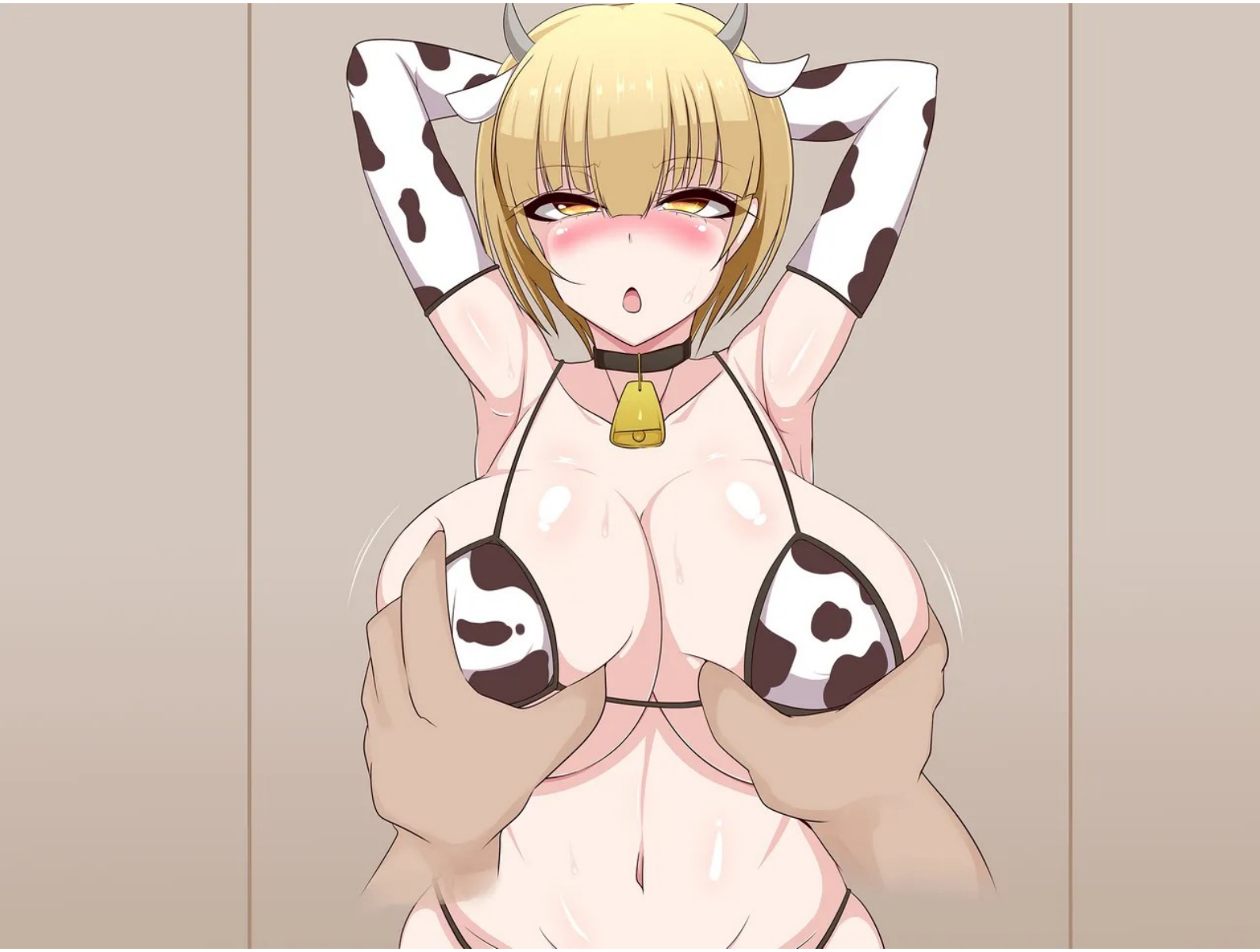
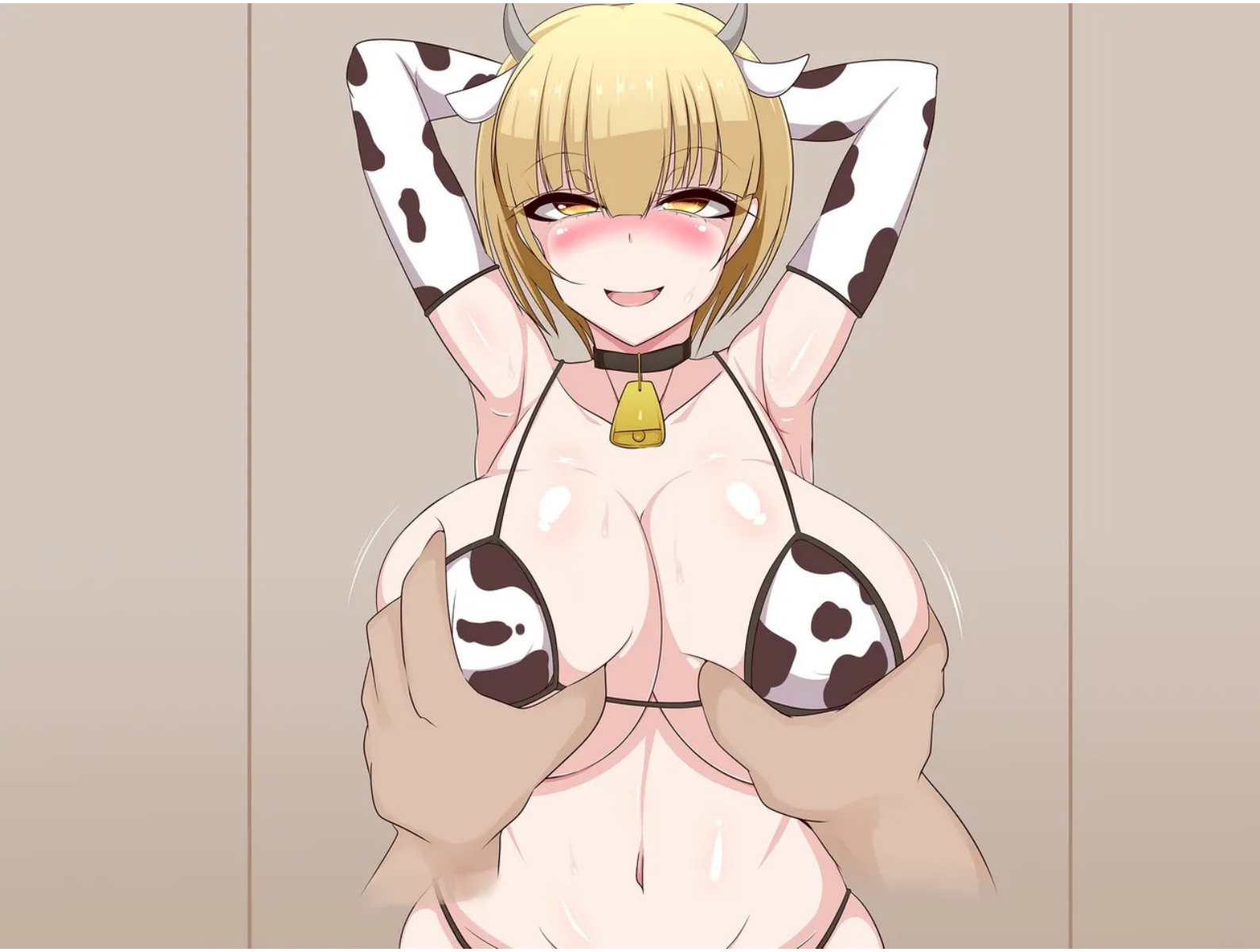
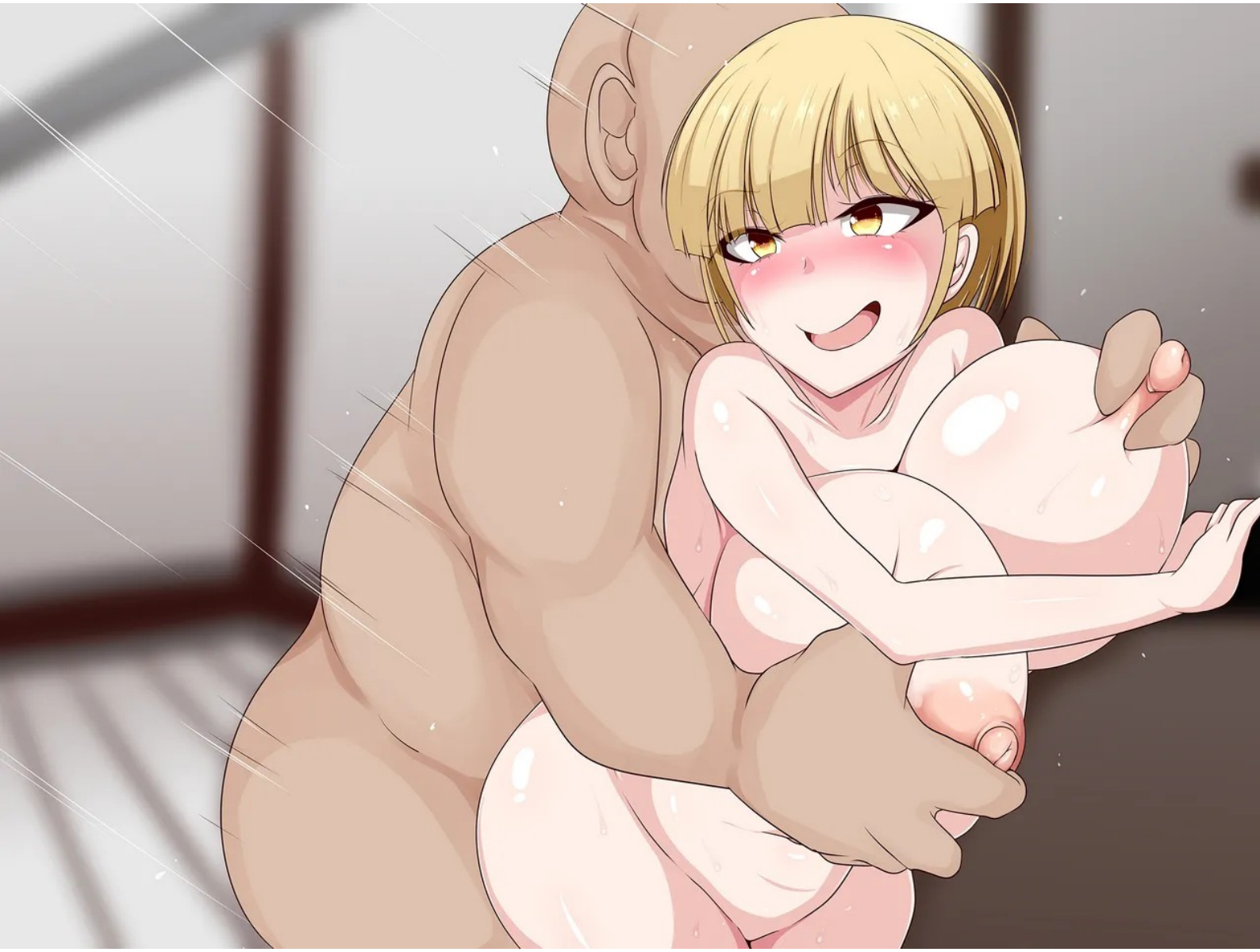
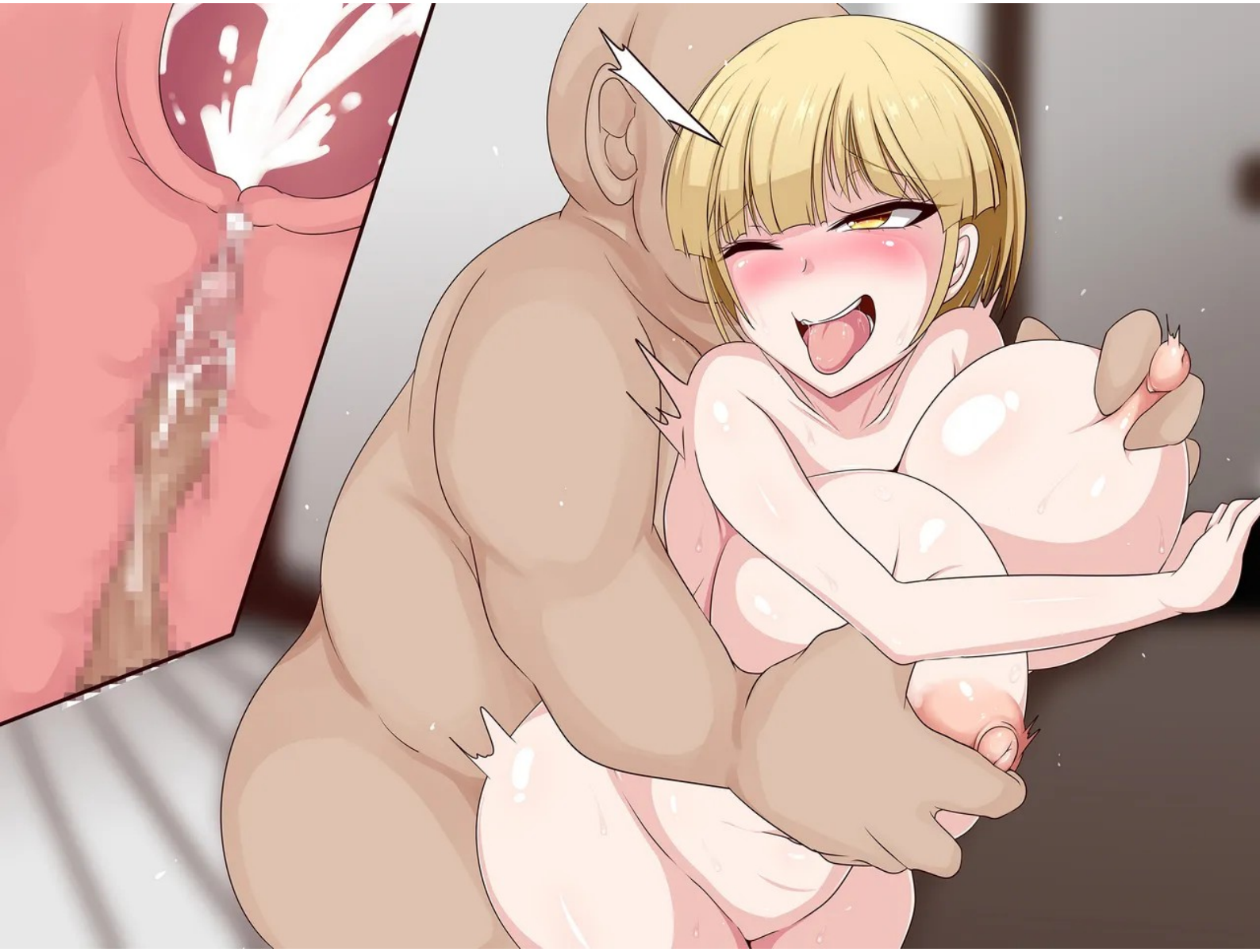
まぁ、増やせるなら増やしたいけど……！

つまるところ、この光景こそが俺の理想郷であり、
魂の求め続けていた答えなのである。
ふふ、3人とも見事なボテ腹だ。
パンパンに張ったおっぱいから出る母乳も
毎日搾ってあげている。
若い娘のミルクは実にイイ。
とても元気になる。
ボテッ♡
ボテッ♡
ボテッ♡
ぱぁ♡

次もSSRで枠をとるか、それともSRで我慢するか……。
いや、いっそのこと数のRで攻めて孕ませの満足度を上げるという手も……。
おっと、いかんいかん……。
つい、更なる欲望が滲み出てしまった。
ふふ、楽しみが尽きないなぁ……！
おわり

00:00
100%
ムービー
&
フォト
改変アプリX
メール


00:00
100%
改変アプリX
改変枠を固定します。
以下のどれかを選択・
決定してください。
R
9人まで選択可能
SR
6人まで選択可能
SSR
3人まで選択可能


00:00
100%
改変アプリX
改変枠を固定します。
以下のどれかを選択・
決定してください。
R
9人まで選択可能
SR
6人まで選択可能
SSR
3人まで選択可能
OK！

00:00
100%
キー君への好感度
MAX
詳細
ミレイ
キー君への好感度
MAX
詳細
ルイ
キー君への好感度
MAX
詳細
ナユ